

一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会

A.C.P.C. navi

©2024 A.C.P.C.

All Japan Concert & Live Entertainment Promoters Conference

SUMMER 2024 VOL.52



中西健夫 ACPC 会長 連載対談 第36回ゲスト 小林武史 音楽プロデューサー

伊神悟 ACPC 副会長 新連載「伊神が行く!」 第1回 北海道



表紙の言葉

音楽業界団体の中で、ACPCの個性・特徴は何かと問われれば、真っ先に「日本の全エリアに会員社が広がる全国組織であること」という答えが挙がるのではないのでしょうか。全国各地に仲間がいること——それがまさに、これまでのACPCを支え、これからも変わらないACPCの強みであり、個性であることは間違いありません。

その個性を存分に活かした新連載「伊神が行く！」が今号よりスタートしました。

そして、伊神悟 ACPC 副会長が取材のために訪れた地、北海道をテーマに小池アミゴさんが描き下ろしたイラストが今号の表紙になっています。伊神副会長を囲んで、地元のコンサートプロモーターの皆さんが語った「北海道ボールパークFビレッジ」「AOAO SAPPORO」「さっぽろテレビ塔ビアガーデン」「締めパフェ」などの最新／定番スポットや名物が描き込まれ、一枚の画で見事に北海道を表現した作品になっています。

新連載と併せてお楽しみいただければと思います。



イラストレーション：小池アミゴ



- 4 VOL.52 刊行のご挨拶 中西健夫 ACPC 会長
- 5 中西健夫会長連載対談
第36回ゲスト 小林武史 (音楽プロデューサー)
- 10 新連載 伊神が行く! HOMETOWN ENT.NIGHT&DAY
伊神悟 ACPC 副会長 第1回 = 北海道
- 16 オンライン座談会
全国会員社キャリア別ミーティング アバウト「入社10年」座談会
大友陽平 (ノースロード・ミュージック) × 竹本和太郎 (ウドー音楽事務所) ×
沖野陽子 (キャンディープロモーション) × 西晃一郎 (ピーエムエージェンシー)
- 21 令和6年能登半島地震 災害義援金のご報告と御礼
- 22 ECSA Lounge
- 24 ライブ・エンタテインメント ラボ、研究中
- 28 連載コラム
「帰ってきた TALKING BLUES」
鏡 孝彦 (ACPC専務理事)
- 29 navi ARENA



日頃より本会の活動にご理解とお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、2024年6月18日に開催されました令和5年度定時社員総会及び理事会において、引き続き会長の要職に選任いただきました。

前回の任期中(2022年6月～2024年6月)には、新型コロナウイルスの影響によるイベント開催制限が撤廃され、今号でご報告しております基礎調査の結果によると、全体の公演数や動員数、市場規模はコロナ禍前の水準以上にまで回復しました。

しかしながら、大都市圏への集中がより顕著になり、全国的な市場の回復には至っていないことや、人材・部資材の不足など、なおも取り組まなければいけない課題がいくつもあります。今後とも、業界の課題を皆様と一緒に考えていければと思っています。

さて、今号のA.C.P.C. naviでは、音楽プロデューサーの小林武史様と対談いたしました。これまで音楽を通じ社会問題や環境問題に継続的に取り組まれている経緯や、昨年度の人材育成研修会で訪問させていただいた小林様プロデュースの「KURKKU FIELDS」に込めた思いなど、貴重なお話を伺っています。

そして、待望の新連載「伊神が行く!」がスタートしました。伊神副会長を先頭に全国の仲間たちに会いに行き、各地方の魅力を伝え、地元プロモーターの声を届ける場になればと期待しています。

また、本会では令和6年能登半島地震の支援として募金活動を実施し、正会員のご協力により全国各地の公演会場にご来場の皆様から多くの温かいお気持ちをいただきました。改めて心より感謝を申し上げます。6月末、実際に能登半島へ行きましたが、被災地の復旧が進んでいない現状を目の当たりにし、色々と考えさせられました。本当にこれからが大変なんだと改めて思っております。我々に出来る事を更に考えていきたいと思います。

これからも、本誌が全国のコンサートプロモーターの絆を改めて確認する場であり続けられるよう、新体制となったACPCから、第52号をお届けします。



一般社団法人コンサートプロモーターズ協会
会長 中西健夫

自分のためではない取り組みも
ちゃんと自分に帰ってくる、栄養になる



小林武史 Takashi Kobayashi
音楽家 音楽プロデューサー
ap bank 代表理事
KURKKU FIELDS 総合プロデューサー

中西健夫 Takao Nakanishi
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会会長
株式会社ディスクガレージ取締役会長



KURKKU FIELDSではいい感じで
さまよってもらいたいと思います。

小林 武史

音楽プロデューサー

コンサートやフェスの開催は、自然災害の影響を大きく受けることもあり、環境問題と無縁ではられません。アメリカでは環境問題への取り組みを積極的に行うスタジアムが誕生し、ACPCでも令和5年度の人材育成研修会を「農と食、アートと自然。いのちのてざわり。」をテーマに掲げるサステナブルファーム&パーク、木更津KURKKU FIELDSにて行いました。今号ではKURKKU FIELDSの総合プロデューサー、小林武史さんをお招きし、2003年のap bankの立ち上げ以前から小林さんが意識していた音楽と社会の関わり、ap bankやap bank fesから生まれた思いの「実践の場」というKURKKU FIELDSが目指すものを、中西健夫ACPC会長がお聞きしました。

9.11～ap bank 前史

中西 小林さんと初めてお話しさせていただいたのは、ちょうど30年くらい前でした。

小林 Mr.Childrenの4枚目のアルバム『Atomic Heart』(1994年)のタイミングでしたよね。

中西 渋谷の東急のスタジオで試聴会があって、小林さん曰く「ライブを意識して

つくったアルバムだ」と。ライブを意識したアルバムという発想が、当時はあまりなかったこともあり、その言葉が強く印象に残りました。

小林 中西さんだけじゃなくて、全国のコンサートプロモーターの皆さんにも集まっていたら、色々ご説明しましたね。デビューから彼らのプロデュースは続けていましたが、3枚目くらいまでは清潔感のある、初々しさが魅力みたいな面もあったんです。4枚目ではプログレッシブな要素も強くして、ある種のスケール感がある、器の大きな伝え方を意識し始めたんです。

中西 確かにあのアルバムが出たあたりから、急激にライブにシフトして、スケールも大きくなっていきましたよね。

小林 当時は櫻井(和寿)くんをはじめ、メンバーも相当こだわっていました。『Atomic Heart』のツアーでは、ライブを2つに分けたり、球場ツアー(STADIUM TOUR -Hounen Mansaku- 夏祭り1995空[ku:])もやりましたし。Act Against AIDSでは桑田(佳祐)さんと櫻井くんの「奇跡の地球(ほし)」(1995年/桑田佳祐 & Mr.Children 名義)も生まれて、しばらくすると9.11(2001年/アメリカ同時多



ap bank fesに足を運ぶことによって、
環境問題への気づき、感じる事が生まれます。

中西 健夫

コンサートプロモーターズ協会会長

発テロ事件)が起きました。その後、日本人のアーティストが社会的な出来事との関わりをどう描いていくのかという意識が強くなり、ap bankに向かう流れができていきました。

中西 9.11の時、小林さんはニューヨーク在住だったこともあり、よりリアルな体験として受け止めたわけですね。日本に帰ってこられた時にお会いして、9.11のことを真剣に語ってらっしゃったことをよく憶えています。

小林 僕の兄は坂本龍一さんより少しだけ下の年齢で、学生運動をやっていた世代なんです。そういう背中を見て育ってきたので影響は受けていると思います。一方で直接的に政治に訴えかける活動をしたいというより、自分達の世代には何か別のやり方があるんじゃないかという気持ちもあって、特に日本の音楽シーンに身を置いている立場としては、どういう方法があるのだろうかかと模索するような感じでした。

揺るがない「利他」

中西 その後、ap bankを立ち上げて(2003年)、ap bank fesも2005年から継続されています。環境問題について何か発言をす

る人はたくさんいらっしゃいますが、小林さんのようにずっと取り組みを続けることは本当に大変だろうと改めて思います。

小林 成り立ちを丁寧に話すと、ap bankは「bank」という名称から分かるように、当初、自然エネルギーや環境保全活動をされている方々への融資をしていたんです。月1くらいで識者が集まって、融資審査を僕も櫻井くんも参加してコツコツやっていました。自分達の力だけでしたら限界があるし、活動の輪を広げて、東京から離れた場所ががんばっている人達と話をしたり、誰かが直接視察に行ったりすれば新たに見えてくるものもあると思ったからです。とはいえ、自分達のお金だけでやっていたら、やっぱりどこかで資金は尽きてしまいます。そこで初めて音楽とap bankをつなげることになり、ap bank fesという場をつくることになりました。

中西 その過程で小林さんがよくおっしゃっている「利他」というキーワードが出てきたんですね。

小林 そもそも「利他」と「利己」は、つながっているところもあるじゃないですか。2021年にBank Bandのベスト・アルバム

(『沿志奏逢4』)を出すことになった時、このバンドの活動は自分達の音楽、クリエイティブの満足度を上げるためにやっていたことではないけれど、20年近く続けていると、自分の音楽にもちゃんとプラスになってくるんだなと気づきました。もちろん、すべてのものづくりは、そういうところがあると思いますが、ちゃんと自分に帰ってくる。結局、自分の栄養にさせてもらっているし、だからこそ、もう少し続けていこうという気持ちにもなるんだと思います。

中西 小林さんがap bankを続けていることの影響は、色々なところに届いていると思います。僕自身もやっぱり影響を受けていますから。特に東日本大震災の時は、小林さんが真っ先に被災地へ行かれた姿を見て、復興に向けて自分には何ができるかと考えましたね。せつかく音楽に関わる仕事に携わっているのだから、やるべきことをやらなきゃいけないと強く思い、社会的な問題に対する責任を意識し始めました。

循環の意味、価値の逆転

中西 小林さんが総合プロデューサーを務める木更津のKURKKU FIELDSでは、ACPCの人材育成研修会を行わせていただきました。KURKKU FIELDSはどんな思いで立ち上げられたのでしょうか。

小林 ap bank や ap bank fes で生まれた思いの実践の場としてKURKKUは構想されたんです。2008年にリーマンショックがあった当時、環境問題の中でも食に対する興味、より健康的に自分の身体を整えていこうというオーガニックへの関心も高まっていて、最初は都内でセレクトショップ的な展開から始めました。でも、働く人々がどんどんリストラされていく世相でも

あったので、「この野菜は無農薬で健康的ですよ」とか言っても、激安ショップのインパクトには勝てなかった(笑)。そうなるこちらはポップ・ミュージックの人間ですから、頭でっかちな理論だけではなく、お客さんに届ける方法を考えるわけですよ。もともとはスタジオにこもって、太陽光に触れない生活をしていたわけですが(笑)、水泳やシュノーケル、スキューバダイビングをやってみると、太陽光がもたらす循環や命の源たる海とともに暮らす生活の豊かさが分かってくるわけです。太陽の存在の大きさとか、僕らの体内にも微生物がいて土の中とつながっていることも勉強して、そういうことを実感できる場づくりを思い立ったわけです。

KURKKUというのは、フィンランド語でキュウリという意味なんです。Bank Bandで最初のアルバムを出した時(2004年『沿志奏逢』)に、アート・ディレクターの佐藤可士和くんがジャケットを、アンディ・ウォーホルのバナナへのオマージュを含めてキュウリが花を咲かせるデザインにしてくれました。Bank Bandで出すCDは、自分達のクリエイティブな欲求を満たすためじゃなくて、社会をつないでいくモチベーションでつくっているものなので、その価値観の逆転を表現しているんです。ウォーホルの場合は、商業ベースのポスターもアートにもなり得ることを表現したわけで、同じく価値観の逆転を表現しているんですね。それでKURKKUという名称を使っていこうということになり、ネーミングがKURKKU FIELDSになりました。

中西 初めて行った時、あまりに広くて驚きましたが(笑)、僕はACPCの全国会員の皆さんに、あの場を体験してもら

いたかったです。木更津は東京からは近いですが、全国からとなるとなかなか足を延ばす機会はないですからね。KURKKU FIELDSでの研修会に参加した人に聞くと、反応はとてもよかったです。

小林 確かにあれだけ広いと驚きますよね。「こうやって楽しんでください」とマニュアルを細かくつくろうと思えばつくれるんですが、僕はいい感じでさまよってもらいたいと思っています。

中西 色々なエリアで小林さんの音楽と出会えたので、楽しいさまよいですよ。

小林 音楽もそうですけど、もっと抽象的な思いを表現するようなクリエイティブに出会ってほしかったんです。現代アートには特にそういう側面があると思いますが、人間にはまだまだあずかり知らない領域が、実は山のようにあることが、なんとなく伝わると思うんですよ。人間にはしょうもないところもあるけれど、進化もしている。未来がどうなるかは分からないけれど、色々な問題も乗り越えていくことはできるんじゃないかという希望を伝えたいんです。

中西 最後にap bankの今後の活動を少しだけでも教えていただければ。

小林 ひと言だけ言うと、太陽光など環境のことを感じるには自然の中で開催するほうが分かりやすい面もあるので、今までずっと地方でやってきましたが、都市でもできないだろうかと考えています。気候の変動を都市でも感じられるようになっていし、世界情勢がより複雑になって、多数の問題がそう簡単に平和に向かって解決できるような状況にはないということもあります。そんな中では都市から発信したほうが、色々な可能性を試せるといいですか、

伝えるためのツールがたくさんあるじゃないですか。都市自体が一つの展示場みたいな面もありますし。

中西 地方からの発信もとても重要ですが、都市で未来を考えることにも大きな意味があると思います。ap bank fesに足を運ぶことによって、特に環境問題や社会情勢に関心がない人でも気づきというか、感じるものが生まれますからね。今日はありがとうございました。



PROFILE

小林 武史

こばやし・たけし

音楽家、音楽プロデューサー。ap bank 代表理事。KURKKU FIELDS 総合プロデューサー。1980年代から現在まで数多くのアーティストのレコーディング、プロデュースや映画音楽を手がけ、日本の音楽シーンを牽引する第一人者である。非営利団体「ap bank」を立ち上げ、環境プロジェクトへの融資や野外音楽イベント「ap bank fes」の実施の他、東日本大震災後は復興支援活動に従事し、芸術祭「Reborn-Art Festival」を立ち上げるなど、様々な活動を行なっている。2019年からはエネルギーと食の循環を体験できる「KURKKU FIELDS」を始めるなど、サステナブルな社会への取り組みにいち早く先鞭をつけてきた総合プロデューサーである。

※本誌に掲載された座談会はダイジェスト版です。完全版はACPCホームページをご覧ください。





伊神が行く!

全国へ行く
地元で語る
新連載

HOMETOWN ENT. NIGHT & DAY



撮影：山下恭子 (n-foto) ※p11下部、p12下部は除く

新連載が始まります。昨今のリモート時代に逆行するかもしれませんが、毎号、伊神悟 ACPC 副会長が全国各地に馳せ参じます。自身も東海地区のコンサートプロモーターである伊神副会長が、全国会員社の皆さんとともにライブ・エンタテインメントについて考え、時には未来を熱く語り、時には愚痴をこぼし合いながら密に交流していきます。そして、この連載を通して各エリアの魅力を伝え、地元プロモーターの声を届けていければと思います。第1回のエリアは「北海道」。若林良三常務理事(ウエス)、山本博之理事(マウントアライブ)のご尽力もあり、ウエス、道新文

化事業社、マウントアライブ、ミュージックファンの4社、計12名が一堂に会し、伊神副会長を迎え入れてくださいました。北海道の興行は、道外からの集客がポイントになり、お客様はコンサートだけではなく、観光や美味しい食事を加えた娯楽を求めているようです。コンサートプロモーターも地元の魅力を総合的に熟知している必要があります、今回は会社ごとにチームを組み「ツーリストがライブ・エンタテインメントを含めて北海道で楽しむには」をプレゼンテーションしていただきました。北海道を堪能し、エンタテインメントも体験できる各社の観光プラン、披露スタートです!

ウエス



(左から) 一郷昭彦 / 金子将大 / 西木基司



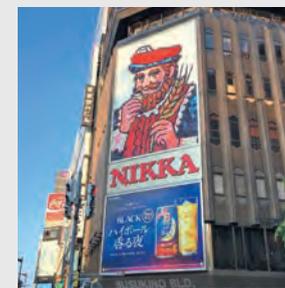
札幌全部載せコース

新千歳空港に着いた後、札幌市内への移動中に「北海道ボールパークFビレッジ」がありますので、その中の北海道日本ハムファイターズの新球場「エスコンフィールド HOKKAIDO」で、まず野球観戦を楽しんでもらいたいですね。エスコンフィールドはメジャーリーグの球場を参考にしてつくっているため、他の球場と雰囲気が全然違って感じると思います。その後「札幌ドーム」に行ってみるのもいいですよ。2022年までの本拠地である札幌ドームがどうなっているのかをチェックするのも面白いじゃないですか。続いては「白い恋人パーク」。写真やロゴをプリントしたオリジナルの缶をつくれますので、ここで白い恋人をお土産に買うのもいい。それと新しくできた水族館「AOAO SAPPORO」もお勧めです。狸小路の街中であってアクセスもいいですが

ら。インスタ映えならクラーク博士像がある「羊ヶ丘展望台」。昼食はここで羊を見ながらジンギスカンを食べるのはどうでしょう。その後はイサム・ノグチが設計した、公園全体が彫刻の「モエレ沼公園」も映えスポット。この公園内ではコンサートもよくやるので、タイミングが合えば音楽も楽しめます。それと写真を撮るなら「ニッカ・ウイスキーの看板」前も外せないですね。夕食は「海味 はちきょう」で。居酒屋ですが、丼を頼むとかけ声とともにイクラをどんどん盛ってくれます。その後、大人の皆さんはニューハーフ・ショークラブ「LaLaToo (ららっつー)」に足を運ぶのもあり。ショーのクオリティがマジ、ヤバいレベルで、表現にも演出にも驚きますし、ライブ・エンタテインメントの一つとして充分楽しめます。そして、締めはラーメン、最近の札幌の流行でいえば「締めパフェ」ですかね。

伊神のひと言

ベタですが、僕もニッカの看板の前では写真を撮りたい。
大阪のグリコに並ぶ札幌の象徴、一見で「すすきのに来た! 遊ぶぞー!」という気分になります。



道新文化事業社



(左から) 藤田祐理 / 田村佳菜 / 金丸祐未



※後ろに写っているのは、今回オブザーバーを務めていただいた
(右) 若林常務理事、山本理事

花火とお祭り、スイーツまで

ウエスさんのプランとカブってしまった部分も多いのですが、新千歳空港から「北海道ボールパークFビレッジ」「札幌ドーム」への流れは確かにいいかなと。新球場「エスコンフィールドHOKKAIDO」は道民の自慢ですし、道外の方からも人気が高いと思います。私達の推しは「球場飯(通称:えふめし)」。球場内でイクラ丼をぜひ食べてほしいです。「AOAO SAPPORO」もやっぱり足を運んでもらいたい新名所です。お酒を飲みながらペンギンを見られる珍しい場所ですし、うちでも落語の公演をやらせていただいたことがありますが、エンタメ・スポットとしても可能性があると思います。業務の関連でいえば「国営滝野すずらん丘陵公園」。ここでの花火大会のチケット販売を担当しておりまして、縁日があったり、ジンギスカンが食べられるコーナー

があったり、1日中遊べます。それと弊社とも関係が深い小林酒造さんが運営されている栗山町の「くりやま老舗まつり」(酒造まつり/谷田製菓による「きびだんごまつり」も)は、ここでしか味わえないお酒の試飲などがあって楽しめます。夜のお店にはあまり詳しいわけではないのですが、先日行った「北の味 大助」という居酒屋は、なぜか入口に競艇のボートが飾ってあります。札幌で競艇はやってないので不思議ですが……美味しいお店でしたね。最後はやっぱり「締めパフェ」でしょうか。札幌はスイーツも豊富で、最近流行っているのは「シマエナガスイーツ」。シマエナガという野鳥の形をしていて、白くて丸くてカワイイですよ。シマエナガは色々なグッズにもなっています。それと「北菓楼」というお菓子屋さんのソフトクリームも、新千歳空港で売っているの、ぜひ食べてほしいです。



北海道ボールパークFビレッジは道民の誇り ©H.N.F.

伊神のひと言

お土産も進化するので、競争も激しいと思いますが、僕も札幌に行くと、いつも「北菓楼」の開拓おかきを買います。

マウントアライブ



(左から) 齋藤端 / 畑健太郎 / 子出藤恵徳



苫小牧から始まる1泊2日の旅

1泊2日の旅と題して、マウントアライブが誠心誠意込めたおもてなしをさせていただきます。

我々はフライトを決めるところからスタートします。JALの3101便、これは伊神さんに合わせて名古屋からの便で、10時15分に新千歳空港着。そして札幌には向かわずに、苫小牧に足を運んでいただきます。11時40分着の後、乗馬体験ができる「ノーザンホースパーク」へ行って、仔馬とたわもれたり、馬に乗っていただきます。名馬ディープインパクトのゲート(モニュメント)もありますので、競馬が好きな方にはいい思い出になるでしょう。

苫小牧を後にして、札幌に入ると14時30分頃。おなかもすいてきますので、「ツキサップじんぎすかんクラブ」でランチを食べさせていただきます。次は「八紘学園」(農産

物直売所)のソフトクリームでデザート。17時頃、すすきのを見渡せる「札幌ストリームホテル」のプレミアムにチェックインします。夕食は19時から、テレビ塔の下の「さっぽろテレビ塔ビアガーデン」でお酒を飲みながら召し上がっていただきます。夜もふけて、すっかり身体もすすきのに慣れてきたところで、バーなどはいかがでしょうか。「スーパースナック」という昭和の歌謡曲が堪能できるお店。35歳以下は入店不可なので、僕らだけでは入れないのですが、伊神さんと同伴なら一緒に盛り上げられます(笑)。24時半、締めは「ちゃんぽん一鶴」でいかがでしょうか。翌朝は10時40分にホテルをチェックアウト、11時頃に「狼スープ」というお店で味噌ラーメンを堪能していただいてから、新千歳空港へと向かってください。豊富なショッピングが揃っていますので、空港でもお土産選びで楽しめます。

伊神のひと言

苫小牧とすすきの、楽しそうですね。伊神向けにプランニングしてもらって申し訳ないです。「スーパースナック」では何を歌えばいい? 千春さん? みゆきさん?



ミュージックファン



(左から)尾崎麻理亜／高橋翔太／長田周平



朝市の穴場、ワイン、B級グルメ

道外からライブを観に来てくださった方のために、1泊2日でこういう楽しみ方はどうかな?という視点で考えてみました。午前中に空港着、新千歳空港は大規模で食事充実しているので、お昼ごはんは空港で食べるのもありかなと思います。もしくは札幌まで移動して、いろいろな名物をランチでも食べられます。例えば「スープカレー」や「豚丼」。夜、ライブを観た後は、ジンギスカンなどはいかがでしょう。ちなみに弊社の業務の関連でいえば、札幌の「ジンギスカン Ram(ラム)」というお店には、嵐5人のサインが飾ってあります。メンバー全員が揃ったサインは珍しいので、ファンの方にとっては一見の価値があるかなと。夕食は先程も挙げた「海味はちきょう」。翌日の朝食は「札幌中央卸売市場」に行くのがお勧めです。中央卸売市場には観光

客向けのお店が大通り沿いにズラッと並んでいますが、実は1本奥に入ったところに「さっぽろ朝市」という市場があって、そちらだと大通りのお店の6割くらいの金額で海鮮を買えたり、発送ができたりするので、実は穴場なんです。朝5時から開いています。続いては札幌と隣接した小樽に移動。小樽市から少し先の余市町は「ワイン」で有名なんです。フランスのミシュラン三つ星のお店に、唯一置いている日本のワインが余市産で、名物の「ウニ」と一緒に食べていただくと最高だと思います。それと小樽のB級グルメとして意外と知られていないのが「あんかけ焼きそば」。あんかけ焼きそばは小樽発祥という説もあります。それから小樽には「ルタオ」とか、スイーツの名店も多いんです。札幌に戻れば、動物と触れ合えるテーマパーク「ノースサファリサッポロ」、温泉街「定山溪」もあるので、楽しみが広がります。

伊神のひと言

名古屋にはあんかけスパゲッティがあります。小樽のあんかけ焼きそば、そこに友情を感じました(笑)。



アフタートーク&打ち上げ

各社によるプレゼンが終わった後は、伊神副会長のリードでフリートークに移っていきました。「北海道から才能あるアーティストが数多く生まれている理由は?」との問いかけから始まり、以下のような意見が交わされました。

ウエス・西木 程よい東京との距離感がいいんじゃないでしょうか。遠く離れてはいるのですが、飛行機で1時間半ですし、地続きじゃない分、客観的に東京を横目で見ながら、独自にいいものをつくらうとする傾向があると思います。

伊神 全国と東京の関係性は、北海道と札幌に近く、北海道は独立しているイメージ。

マウントアライブ・齋藤 やっぱり食べ物がおいしいことが一番。それと物価が安い。自分達が暮らす上でもそうですし、アーティストの皆さんが北海道に来てくださる大きな理由になっています。

ミュージックファン・長田 札幌での興行は、来場者の方の半数以上は道外の方が占める場合もあります。それを考えると観光とライブが結びついて、お金を落としてもらうことが我々の業界を発展させることにもなると思います。

伊神 地域の観光事業と連動するためには、コンサートが生む経済波及効果をデータにして行政に提出する必要があるですね。これはACPCがやらなくてはいけないことの一つだと考えています。

道新文化事業社・藤田 改善できるところがあるとすれば……北海道は広いですから、弊社では札幌以外の各地方でもコンサートや落語も開催していますが、やっぱり売れ行きは地域によって出ます。数年前までファイターズの道内地方戦を主催していたんですが、エスコンができてから、一軍はまだ地方には回っていないんです。野球でもサッカーでも当たり前のように地方戦が行われるようになれば、各地が盛り上がると思います。

打ち上げに移動後は、「ここはリラックスした席なので、本音をぶつけ合いましょう」との伊神副会長のひと言で、遠慮がちながら皆さん日々の業務にまつわる本音を語っていただきました。「週末とか、観光のハイシーズンに突然、スタッフが10人増えたので宿泊を押さえてください……と当たり前と言われるのは本当にキツイ。宿泊代が高いと指摘されることもありますが、インバウンドもあって道内のホテル全体がドンと上がっているので、値段のことがばかりを言われるのは…」[アルバイトのスタッフ集めが大変ですね。新球場での試合や、さっぽろ雪まつりと時期が重なると相当厳しいです]「押さえてあった夜の打ち上げのお店を、簡単にバラされるのがツライです。付き合いいもあるので、いつも謝りに行っています(笑)」などの声が、伊神副会長に届きました。



今回の取材には、本誌を担当する事務局の原裕一郎(写真上/右手前)、田村華奈子(写真下/右奥)も同行。皆様の声を業務に活かしてまいります



打ち上げの会場は「ろばた大助(おおすけ)本店」。系列店を含め、札幌のプロモーターがアーティスト打ち上げでもお世話になっている名店です。刺身盛り合わせ、羅臼産 真ほっけ開きなど、どの料理も絶品

全国会員社キャリア別ミーティング アバウト「入社10年」座談会

収録日: 2024年5月29日

前号では平均年齢24.8歳のアンダー「入社5年」座談会が実現。今号はその第2弾、全国プロモーターの入社10年前後の皆さんがオンラインでミーティングをしました。キャリアを重ねて仕事への手応えをつかみながら、責任が増してプレッシャーを感じることも多い年代の「リアルな声」とは？



大友陽平
ノースロード・ミュージック
制作/2010年入社(36歳)



竹本和太郎
ウドー音楽事務所
制作グループ 兼 事業開発グループ 課長/2011年入社(37歳)



沖野陽子
キャンディープロモーション
チケット担当/2018年入社(34歳)



西晃一郎
ピーエムエージェンシー
制作/2017年入社(32歳)

遠回りと変わらぬ思い

—— まずはコンサートプロモーターという職種に就こうと思ったきっかけ、入社に至る経緯を教えてください。

大友 もともと音響関連の会社に入りたくて、地元の仙台から上京してPAの仕事をしていました。でも、実際に研修生という立場で仕事を始めて、ツアーにも同行させ

ていただいとみると、自分にはなかなか難しく、挫折をしてしまいました。その後、帰郷して学生時代もアルバイトしていたノースロードでバイトを始めました。「帰ってきたなら、うちでまたバイトしたらいいんじゃない」と今もお世話になっている先輩に声をかけてもらい、いつの間にか名刺を持って働くようになっていた感じです。遠回りはしてしまいましたが、PAの仕事

していた経験は今も役に立っています。

竹本 高校の頃にコンサートの仕事に興味を持ち始めました。学園祭で力を合わせてステージをつくる経験をしたのがきっかけです。東京の大学に入学した後も、ずっと音楽業界に入りたいと思っていたんですけど、新卒の時には就職活動がうまくいかず……フリーターを経て、ドラムを演奏していた経験があったこともあり楽器屋さんで就職しました。ある時、お店のスクリーンでクイーンのライブを流していて、会場いっぱいのお客さんが盛り上がっている姿を見て「自分はこういうコンサートに関わりたかったんだよね……」と思いました。やっぱりステージに関わる仕事がしたいという思いは変わらなかったんです。それでウドー音楽事務所の求人に応募してみたら、無事入社できたという経緯です。

沖野 広島から新卒で上京したタイミングで、最初の就職は東京のプロダクションでした。自分が好きだったアーティストが所属していたプロダクションで、今思うとよく採用してくださったなと思います(笑)。実際に勤めてみると、自分の力不足でなかなかお手伝い的な仕事から進歩することができず、2年間いた後、子役のマネージャーに転職しました。4年間は続けたのですが、そこでも挫折してしまい、超後ろ向きな気持ちで広島に戻ってきたんです。そもそもコンサートに行くということすら考えられないくらい無知だったんですけど、アーティストのファンになったことがきっかけで音楽の仕事がしたいという気持ちはあったので、キャンディープロモーションに入社しました。

西 出身は熊本なのですが、沖縄の大学に進学しました。入学したのが2011年、東日本大震災の影響で全国的にイベントがなくなっていった時期だったんです。4月の入学式を終えてすぐ、大学の近くのビーチで、MONGOL800が主催するWhat a

Wonderful World!! をやっていました。入場無料のイベントだったんですが会場では、県内の各銀行の方々も参加して「義援金へのご協力宜しくお願いします」と募金を呼びかけていて、ほとんどのお客様が募金をしていく光景を見て驚いたんです。音楽フェスが初めてだったということもあり、その光景があまりに印象的で……コンサートやフェスに関わる仕事ってすごいなと思いました。その後、先輩からピーエムエージェンシーのアルバイトを紹介されて、そのまま入社しました。

多忙と不安から抜け出すには

—— 入社して5年、10年が経つと、仕事に慣れていく一方で、壁にぶつかると思いますか、転換期が訪れる場合もあります。その時の経験をお聞かせください。

大友 20代前半は、ひたすら現場、現場で、業務をこなすことで精一杯でした。アルバイトのスタッフ集め、お弁当やタクシーの手配、各種打ち合わせ、消防署への申請などにひたすら追われていて、「自分はいったい何をやりたかったんだろう?」と疑問が湧いてくることは誰しもあると思います。そんな時に、初めてアーティスト担当を持ったり、小さな規模でも自分でイベントを仕切ったりすると、「ああ、この仕事をしてよかったな」と改めて思えるんじゃないでしょうか。僕にとってはそれが入社5年目で、初めてのアーティスト担当は25歳の時でした。打ち上げでメンバーから初めて「ありがとう」と言われた時に、「ああ、よかったなあ」と思いました。

竹本 ウドーは海外アーティストの招聘をする会社ですが、僕が入社する時、語学が採用の条件としてマストという雰囲気でもなかったんです。それで少し安心していたら、配属されたのがめちゃくちゃ英語を使う部署で(笑)。舞台制作側のセクション



大友さんが勤めるノースロード・ミュージック主催イベント TOHOKU MUSIC JOURNEY 2023 初開催(宮城県仙台市・夢メッセみやぎ／2023年12月9日～10日)

で、アーティストとともに来日したスタッフも多いですから、ステージでは英語が飛び交っているんです。僕はアルバイトの経験もなかったのですが、ステージをつくり上げる1日の流れも分からなかったですし、英語も分からない。これはヤバイなど。半年くらいして少しずつ分かるようになってきましたが、要するにスタッフ全員、いいステージをつくりたい、トラブルなくリハーサルを終えたいという目的は一緒なので、最悪、言葉が足りなくても文法が間違ってもOKなんですよ。それに気づいてからは不安もあまり感じなくなりました。

沖野 私は入社してからずっとチケット担当で、最初は先輩と一緒にライブハウスの公演から業務を始めるんです。ライブハウスに慣れてきたところで、「じゃあ、ホールをやってみようか」となるのですが、一度PA席を全部売っちゃったことがありまして(笑)。その時はさすがにすごく怒られました。たまたま地元の団体販売用に少し余分に押さえていたチケットがあったの

で、そちらで振り替えることができたのですが、1件1件お電話でご説明をし、移動のお願いをしました。その時に改めて「私は絶対に間違えたらいけない仕事をしているんだな」という実感を持ちましたし、もっと丁寧に仕事をしようと強く思いました。

西 僕も大友さんと同じで、毎日毎日の現場から現場への手配が続く中、アーティスト担当を持ったことが転換期になったと思います。うちの会社はMONGOL800の所属プロダクションも兼ねているので、ツアーに同行することもあるんです。それでプロモーター側の目線ではなく、アーティスト側からコンサートに関わる機会があって、その時に全国のプロモーターの皆さんのやり方を色々勉強させていただきました。25周年の時に大阪城ホールでコンサートを行ったのですが、担当エリアではないのにキャンディープロモーションの袴田(和弘)さんが、広島名物むすびのむさしのお弁当を、スタッフ分含めて200個くらい届けてくださったんです。夜食用に、深夜

の12時くらいに。その関係性といいますか、気遣いはすごいなあと感動しましたね。僕もそんなプロモーターになりたいと思いました。

各エリアの「これから10年」

——これまでの経験を踏まえて、これから先の10年、自分の仕事をどうしていきたい、担当エリアのライブ・エンタテインメントには何が必要かなど、お考えになっていることを教えてください。

大友 僕ら各地域のプロモーターは、どうしても東京から請け負う業務に日々追われてしまいますが、そんな中で自分が企画する興行をどう増やしていくかが、最大の課題だと思います。ありがたいことに今は自分がカッコいいと思ったアーティストの仕事をさせてもらっていて、好きな音楽を地元にも少しでも広げていくことが自分の使命だと感じています。この気持ちを原点に

して、もっといいバンドを育て、自分達のお客さんも育て、自分達も成長していきたいですね。

竹本 ウドーだけではなく、おそらく他社もそうだと思いますが、新卒で入ってくる社員は女性が増えています。男女の別を特別視する気持ちは一切ないですが、だったらこれまでの雇用についての常識を変えていかなくてはいけないとも考えています。例えば保育園のお迎えのために仕事を別の社員に引き継いで、早退することを男女問わず当たり前にする必要があるでしょうし、それぞれの生活に寄り添う形で仕事をできるようにしなくてはいけない。僕も管理職になりましたので、最近は若い世代の人達の働き方も意識するようになりました。それとステージ上のことでいえば、海外には演奏力が桁違いに高いアーティストがたくさんいて、彼らが演奏する音を届けるプロモーターの役割は、絶対継続させなくてはいけないと思っています。HIP-HOPやK-POP、ダンス・ミュージックが主流に



竹本さんが勤めるウドー音楽事務所が主催した ONE NIGHT ONLY IN JAPAN BILLY JOEL IN CONCERT (東京都文京区・東京ドーム／2024年1月24日) 撮影：土居政則



西さんが勤めるピーエムエージェンシーが主催するWhat a Wonderful World!! 23 (沖縄県宜野湾市・宜野湾マリーナ・トロピカルビーチ特設会場／2023年11月3日～5日)

なってくると、デジタルが中心になり、生楽器のアンサンブルから生まれる音楽が下火になってしまいがちですが、そこをなんとか盛り上げていくのが目標です。

沖野 今のところ私は、社内で「この仕事は沖野じゃない」と思ってもらえるレベルまで達していないので、「これは沖野に任せたら絶対売れる」と評価されるところまで、なんとか行きたいと思っています。それと広島や中国地方の課題は、コンサートに足を運んでくださるお客さんのリピート率じゃないかと考えています。チケットの動きを見てみると、人気が出始めているアーティストがツアーで来ると、1回目は来てくださっても次回まで継続していない気がするんです。じゃあ、どうすればいいのか、答えは出ていないのですが、前回は下回らないようにチケットを売りたいと思います。それとホールによっては、コロナ禍が明けても集客が戻っていないところもあります。ホール公演で当日券の販売がある時は、自分もチケット担当として会場に

行くのですが、無事に会場が埋まっているとホッとしますし、チケットを売ることにやり甲斐は日々感じています。

西 自社で行っている野外フェス、What a Wonderful World!! をウエスさんの RISING SUN ROCK FESTIVAL やデュークさんの MONSTER baSH を目標に、全国に名前が知られるフェスに成長させたいという気持ちは強いですね。近年、野外フェスの数は全国で増えているように感じるのですが、そこでどう他のフェスと差別化できるのかを今は考えています。それと先程もお話した MONGOL800 のツアーに同行した体験でいえば、メンバーは自分達が公演した47都道府県ごとの思い出を持っているんです。「昔、このライブハウスでやったんだよ」とか、オフの日に食事に行っても「この店は昔から知っていたね」みたいな話をよくしています。懐かしい友人に会いにくいような感情を全国のプロモーターの方に持っていると思うので、自分もそういう記憶に残るプロモーターになりたいと思います。

令和6年能登半島地震 災害義援金のご報告と御礼

令和6年能登半島地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

ACPCでは、この度の災害からの復旧・復興支援といたしまして、全国の正会員が開催する公演の会場にて募金箱を設置し、ご来場のお客様より義援金をお預かりしました。

2024年3月31日までに全国から3,814,278円の義援金をお寄せいただき、ACPCからの拠出金3,000,000円

と合わせて、総額6,814,278円を石川県「令和6年(2024年)能登半島地震災害義援金」に寄付いたしました。(詳細については、ACPCのホームページでもご報告しております)

また、4月以降も募金活動は継続しており、後日追加の寄付を行う予定です。

皆様のご温かいご支援、ご協力に感謝を申し上げますとともに、被災地の1日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

▶ ACPCにてご用意した募金箱を、正会員各社のご協力により全国各地の公演会場に設置し、ご来場のお客様から多くの温かいお気持ちをいただきました。



ACPCホームページ
「令和6年能登半島地震 募金活動
および義援金につきまして」

募金活動を実施した公演(主催者が公表可能とした公演に限る)一覧を掲載しております。



ACPCにてこれまで実施した災害復興支援の事例

●2011年：東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)

全国の正会員が開催する公演の会場にて、募金活動を実施。

寄付先：日本赤十字社、各県災害対策本部、WIND BAND FOR GREEN基金、東北コミュニティ放送協議会、いわての学び希望基金、東日本大震災みやぎこども育英募金、東日本ふくしまこども寄付金、Point Green
Concert 吹奏楽で日本を元気に!!

●2016年：熊本地震

くまもとエンタメ支援金に寄付を実施。

くまもとエンタメ支援金：熊本地震発生後に熊本市が開設。支援金は、地震で甚大な被害を受けた熊本市内の文化ホールの早期復興およびホールの整備費用、熊本市が主催するコンサート等の復興イベントに活用。

皆様のご協力ありがとうございます
被災地の復旧・復興を心よりお祈り申し上げます

ECSAの連載ページ「ECSA Lounge」では、新設スタジアム・アリーナを中心に、どのように集客や地域貢献等の施策を行っているか、ECSAの構成因子となる「スポーツ」・「エンタテインメント」・「地域活性化」それぞれの視座を通して“俯瞰”していきます。

ECSA REPORT 2024年度 第一回 社員総会・理事会報告

去る6月13日に、2024年度の第一回社員総会・理事会を実施、23年度事業報告、及び24年度事業計画が報告されました。23年度より、新規施設計画におけるコンサルティング事業を本格化、Bリーグの2026-27シーズンからスタートする新体制「B.革新」へ向けたホームアリーナ建設、及び新秩父宮ラグビー場建設における施設仕様につき、独自のワーキンググループを組成、各建設フェーズに合わせ、情報提供や提言を行うプロジェクトを実施しています。



24年度は既存の提携先との連携を更に推し進めると同時に、エンタテインメント利用に関する需要の高い施設に着目し、提携先を広めていく方針で、本事業を主要事業として推進していく予定です。

2024年度 事業計画

● MISSION ●

立地・エンタテインメント需要からの絞った新設計画へ、集中したコンサルティング事業を実施
現在の受託先案件の実績を元に、独自のコンサルティング事業を確立したものとし、業界のアドバイザーポジションを強化していく

1. スタジアム・アリーナ新設計画におけるコンサルティング事業の拡張

- * 新規受託先として、立地・エンタテインメント需要から、的を絞った事業へ積極的に参入
- * 業務委託契約締結先企業との、諸案件における長期連携（株式会社DeNA、株式会社東京ドーム）
- * 施設新設計画時の、ヒアリング窓口としての地位確立（スポーツ庁との連携）
- * その他、諸建設計画や都市開発等機会への参画

2. スタジアム・アリーナに関する基礎情報・知見の集約

- * ヒアリング機会等へ向けたデータ集約
- * スポーツ・コンサート以外のコンテンツ事例の集約、及び関係団体との連携
- * 新設施設との連携を図り、情報共有や各所連携を促進

3. ネットワーキング事業

- * Salon de ECSA（独自セミナー）
- * 2023年度の立ち上げ実績を元に、2024年度はスポーツ・エンタテインメント相互の知見を共有し、参加者各位の事業へ活かしていくためのセミナーを定期開催予定

4. 広報事業を通じた情報発信及びプレゼンスの強化

- * ビジネスセミナーへの登壇（ライブ・エンタテインメント EXPO 他）
- * コンサートプロモーターズ協会会報誌「A.C.P.C.navi」内連載コーナー（“ECSA Lounge”）での情報発信
- * ECSA Channel（公式Youtubeチャンネル）
- * その他（調査事業、共催セミナーへの参画等）

今年度もECSAではアリーナを始めとする新規施設建設につき情報の集約及びエンタテインメント界・スポーツ界の連携を促進して参ります。

活動報告 Salon de ECSA #04 実施報告

2024年度の第1回は、ACPC 基礎調査に基づくライブ・エンタテインメント市場動向についての情報共有を実施。今回からはJTL加盟リーグにも参加をいただき、2023年の市場概況及び2024年見通しにつき、情報共有を行いました。

参加者各位からの質疑も多くいただき、

スポーツ界・エンタテインメント界の情報共有の意義を改めて感じるセミナーとなりました。

今年度は、特にスポーツ界・エンタテインメント界のクロスオーバーを促進することを目指し、情報発信・ネットワーキングの場として弊サロンを実施していきます。

Salon de ECSA #04 「2023年基礎調査に基づく 市場動向及び2024年見通し」

- 日時：6月5日(水) 17:00～19:30
- 会場：ACPC 事務局
- スピーカー：田山順一（ECSA プロジェクトマネージャー/ACPC常務理事）

〈概要〉

コロナ禍が明け、実質的にライブ・エンタテインメントのイベントが再開した2023年、業界業績は大きく回復傾向となった。3月に公開されたACPCによる2023年のライブ・エンタテインメント市場調査データを元に、詳細及び2023年を踏まえた2024年見通しについて解説を行った。

ECSAに関する
お問合せは
こちらより



ECSA事務局



ライブ・エンタテインメントラボ、 研究中

ライブ・エンタテインメントラボが取り組む調査・研究結果のご報告と、
ライブ産業を取り巻く課題の現状分析を行うページです。

文：ACPC事務局

ACPC基礎調査から見るライブ・エンタテインメント市場の動向

市場は大幅に拡大するも全国的な回復には至らず

ACPC基礎調査は、ACPC正会員社が開催するライブ・エンタテインメントについての統計調査です。全国各地のコンサートプロモーターによる事業の実施状況を元に、ライブ・エンタテインメント市場の推移をデータ化した国内唯一の資料として、1989年より調査を重ねています。

ACPC正会員社が調査対象のため、日本全体のライブ・エンタテインメント市場の数値とは異なりますが、本調査のデータはぴあ

総研が発行する「ライブ・エンタテインメント白書」をはじめとする各種統計や、メディアでの報道、教育機関などで利用されています。

コロナ禍においては、ライブ業界が被った損失に対する認知の拡大や支援の拡充を要請するために、政府・関係省庁・自治体等との協議における資料としても用いられました。

本稿では2023年の調査結果および市場の動向をお伝えします。調査にご協力下さった会員の皆様に御礼申し上げます。

【ACPC基礎調査 2023年1月1日～12月31日サマリー】

項目	数値	前年からの増減	前年比	2019年同期比
会員社数	76	2増	—	11増4減
総公演数	34,545	+ 2,207	106.8%	108.3%
総動員数	56,326,160	+ 8,010,607	116.6%	113.7%
総売上額	5140億0772万円	+ 1155億7502万円	129.0%	140.2%

2023年の市場概況

1989年の調査開始以来、動員数が初めて5000万人を上回り、市場規模も初めて5000億円を超えました。公演数の34,545も過去最多ですが、公演数がコロナ禍前の2019年を上回った地域はアリーナ5会場が新設された関東のほか、東海・近畿の3地域に限られており、なおも全国的な市場の回復には至っていないのが現状です。

会場規模別の動向では、関東圏（東京・横浜）におけるアリーナ5会場の営業開始により、アリーナ会場の公演数・動員数が大きく伸長しました。

K-POPアーティストによる大規模公演の増加も市場拡大の一因です。K-POPの公演数（658公演）は全体の1.9%にすぎませんが、市場規模（668.4億円）は全体の13.0%を占めています。

エリア別動向 関東への公演の集中が進む

公演数・動員数・市場規模の3指標が、いずれもコロナ禍前の2019年を上回ったのは関東・東海・近畿エリアに限られました。特に関東エリアにおける動員数・市場規模の増加が顕著で、これは新設アリーナ5会場（武蔵野の森総合スポーツプラザ、ぴあアリーナMM、東京ガーデンシアター、有明アリーナ、Kアリーナ横浜）の本格稼働が大きな要因です。関東エリアだけで全国の動員数・市場規模の過半数を占めており、2024年以降も関東エリアでは大規模会場のオー

ブンが続くため、さらに公演の集中が進むことが考えられます。

関東・東海・近畿以外のエリアでは、なおも公演数が2019年の規模に至っておらず、全国ツアーの規模縮小が窺われますが、動員数もしくは市場規模でコロナ禍前の2019年を上回るエリア（東北・北陸信越・九州沖縄）も出てきています。

コロナ禍以降、どのエリアでも中核となる都市に公演が集中し、それ以外のローカルな公演が増えづらい状況は継続しています。

【関東エリアの2019年・2023年の比較】

年	調査結果		市場全体で占める割合	
	2019年	2023年	2019年	2023年
公演数	12,284	15,100	38.5%	43.7%
動員数	22,577,161	29,463,621	45.6%	52.3%
市場規模	1686億5348万円	2720億7714万円	46.0%	52.9%

会場規模別の動向 アリーナ公演が大きく伸長

関東圏の新設アリーナ5会場（武蔵野の森総合スポーツプラザ、ぴあアリーナMM、東京ガーデンシアター、有明アリーナ、Kアリーナ横浜）で約500公演が開催されたため、アリーナ会場の公演数（2,151公演）および動員数（1669.0万人）が大きく伸長しま

した。ホール公演の動員数（1821.5万人）が初めてコロナ禍前を上回ったほか、コロナ禍以降は緩やかな増加に留まっていたライブハウスの動員数（565.6万人）もコロナ禍前の数値に近づきつつあります。

会場	2019年		2023年	
	公演数	動員数	公演数	動員数
アリーナ	1520	1169.5万人	2,151	1669.0万人
	12,865	1752.1万人	14,318	1821.5万人
スタジアム	283	921.3万人	296	987.9万人
	15,453	595.3万人	15,715	565.6万人
野外	347	286.4万人	493	261.6万人

招聘公演の動向 K-POPの大規模公演が市場を拡大

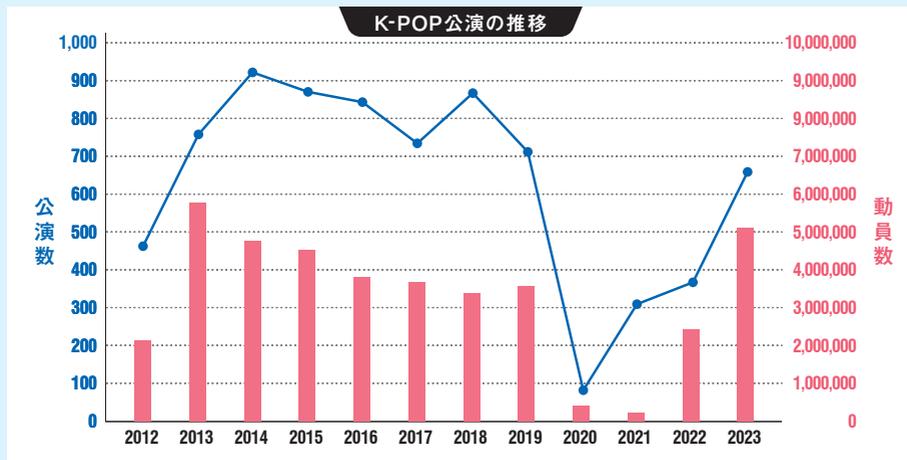
2023年は大規模会場での海外アーティスト公演が多数開催されました。動員数では、2019年との比較でスタジアム184.9%、アリーナ162.6%ですが、ホールは98.5%、ライブハウスは69.7%に留まっています。

また、K-POPアーティストの大規模公演の増加が市場の拡大に繋がっています。公演数(658公演)は2014年(919公演)に及ばないものの、動員数(511.0万人)は2013年(575.5万人)に次ぐ数字となっており、公演の大規模化に伴いK-POP公演のチケット平均単価(¥13,080)の上昇が顕著です。

2023年のK-POPアーティスト公演

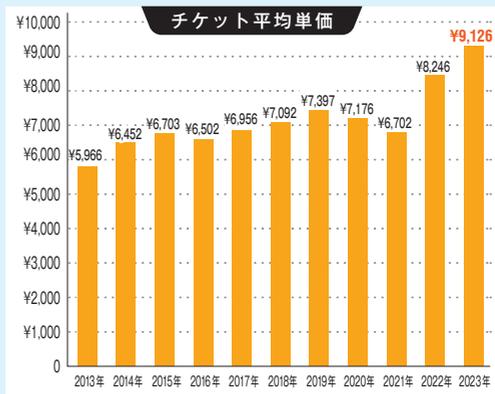
※複数アーティスト出演イベント含む

- 公演数：658(シェア1.9%)
- 動員数：5,110,249(シェア9.1%)
- 市場規模：668.4億(シェア13.0%)
- チケット平均単価：¥13,080
(K-POP以外の公演の平均単価：¥8,731)



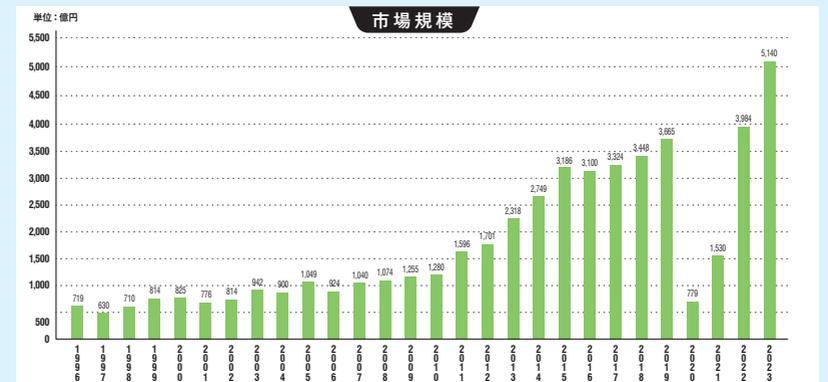
チケット平均単価 2022年以降は急激な上昇傾向に

2023年の市場規模を動員数で割った、チケット1枚あたりの平均単価は¥9,126でした。2021年以降のチケット平均単価の推移を見ると、2021年の平均単価¥6,702に対して2022年の平均単価は¥8,246(前年比123.0%)、2023年の平均単価は¥9,126(前年比110.7%)と、急激な上昇傾向が見られます。チケット価格が比較的高い大規模公演の増加が一因のほか、物価高による人件費や機材費、輸送費など、あらゆるコストの上昇が大きな要因と見られます。



ACPC基礎調査 補足データ 公演数・動員数・市場規模のこれまでの推移

※公演数、動員数の調査は1989年より実施しています。市場規模は96年からの実施です



※調査方法の変更 従来の基礎調査において、動員数と市場規模のデータは「その公演を開催した会員社の所在する地域」で計上していましたが、会員社が所在する地域以外で実施する公演が増加しているため、2022年下半期より、動員数と市場規模のデータは「その公演が開催された地域」で計上しています。比較時にご留意ください。

帰ってきた

TALKING BLUES

Vol. 36



文：鏡 孝彦 ACPC専務理事
(グリーンズコーポレーション代表取締役社長)

春一番のこと

キターッ！2本線!! とうとう初罹患です。

結構、注意していたつもりなんですけど、ちょっとした弱みに付け込まれた感じです。人生の中でこれほどの喉の痛みがあったのでしょうか。甘く見ていました。納豆キムチで勝てると思っていたのに〜。と幕開けから私的な話で申し訳ありません。皆様もまだまだ気をつけて下さい。もっと怖い菌の名前も出ていますしね。

前号ではっぴいえんどの話が出ておりましたが、彼らが1972年に出演したイベント「春一番」の主宰・主催者、福岡風太氏が、亡くなりました。弊社は、1995年に復活後の翌年から主催者の一員として関わらせていただいております。春一番を見に行ったのは、1974年と1976年。その後1978年には、スタッフとして天王寺野音で朝を迎え、1979年の「最後の春一番」時には、バンドのローディとしても働いておりました。

ほんまにライブを見る事自体が、貴重な時代だったこともあったかもしれませんが、出演者とスタッフとお客さんが、三位一体でモノを創ろうという熱気を感じました。時代の流れもあったと思いますが、一地方の大阪が、少し先を走っていると勝手に思っていました。今もその当時の事を忘れずに春一番には、関わっているつもりです。風太氏も私の師匠で風太氏の盟友でもある「阿部登」も現場＝ライブな人でした。思いついた事を即、形にする、急なセッション当たり前、その瞬間でしか見られないモノを創り出す。賛否両論あったと思いますが、めっちゃ勉強させていただきました。ありがとうございました。

あっ何か私的な話で終始して申し訳ないです、原くん。そうそう、春一番第1回から出ていた加川良さんの「高知」という曲、聴いて下さい。ちょっとACPCの歴史が見えるかも？

▶ 令和5年度定時社員総会報告

6月18日、東京国際フォーラムG 409会議室にて、令和5年度ACPC定時社員総会を開催しました。任期満了に伴う役員の改選が行われ、新役員が選任されたほか、令和5年度の計算書類承認や事業報告、令和6年度の事業計画・収支予算報告を行いました。



一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 新役員人事

会長	中西 健夫	(株)ディスクガレージ	理事	加来 聖子	(株) GAKUON ユニティ・フェイス
副会長	伊神 悟	(株)サンデーフォークプロモーション	理事	源野 栄治	(株)ヤング・コミュニケーション
専務理事	鏡 孝彦	(株)グリーンズコーポレーション	理事	後藤 新治	(株)キョードー北陸
常務理事	清水 直樹	(株)クリエイティブマンプロダクション	理事	佐藤 浩史	新任 (株)キョードー大阪
常務理事	田山 順一	(株)ブルーモメント	理事	小路 兼一	新任 (株)キョードー西日本
常務理事	辻居 幸一	中村合同特許法律事務所・弁護士	理事	菅 真良	新任 (株)ジー・アイ・ビー
常務理事	長井 延裕	(一社)コンサートプロモーターズ協会	理事	玉乃井 欣樹	(株)デューク
常務理事	横山 和司	(株)ホットスタッフ・プロモーション	理事	新方 義史	新任 (株)ソーゴー東京
常務理事	若林 良三	(株)ウエス	理事	袴田 和弘	(株)キャンディープロモーション
理事	荒木 伸泰	(株)キャピタルヴィレッジ	理事	舟津 洋輔	(株)ビッグイヤーアンツ
理事	飯島 則充	(株)プロマックス	理事	山本 博之	(株)マウントアライブ
理事	上田 博之	(株)サウンドクリエイター	理事	渡辺 邦夫	(株)ディスクガレージ
理事	遠藤 敬輔	新任 (株)ウード音楽事務所	監事	永田 友純	(株)ホットスタッフ・プロモーション
理事	岡本 有史	(株)キョードー東京	監事	山崎 芳人	(株)キョードー東京

新任理事からのコメント

(五十音順)

遠藤敬輔

㈱ウー音楽事務所
代表取締役社長

ウー音楽事務所の遠藤です。日本のライブ・エンタテインメント産業の更なる発展の為、何が出来るのかをみなさまと一緒に考えて行動していければと願っております。ご指導宜しくお願います。



佐藤浩史

㈱キョードー大阪
代表取締役

この度ACPC理事に就任致しました。キョードー大阪の佐藤です。コロナ禍以降、急激にV字回復しているエンタテインメント業界ですが、テクニカルの人材不足や資材の高騰等さまざまな問題が山積みです。微力ではありますが、それらの問題が少しずつでも改善・改革出来るように、エンタテインメント界のお役に立てるように尽力したいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



小路兼一

㈱キョードー西日本
代表取締役

この度、理事に就任することとなりました。これまでの諸先輩方が築き蓄積されてきたものを引継ぎ、コンサート業界の将来を見据えて微力ながら注力していきたいと考えている次第です。ご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。



菅真良

㈱ジー・アイ・ビー
専務執行役

この度、理事に就任いたしました株式会社ジー・アイ・ビーの菅真良と申します。東北でコンサートの仕事に就いて34年、ビジネスの厳しさや、成功の喜び、ライブの感動、人との繋がりの大切さなど、本当に沢山のことを学ばせて頂きました。お世話になってきた音楽業界への感謝を込めて、日本のライブエンタメが世界で勝つために、若い世代が伸び伸び活躍出来る環境作りと問題解決へ精一杯努めて参ります。今後ともよろしくお願い致します。



新方義史

㈱ソニー・ゴ
取締役

加盟社の皆さまとお客様にとってのより良い環境が何かを考え、ライブ・エンタテインメント業界のさらなる発展のために尽力させていただき所存でございます。



理事を退任された方々からのコメント

(五十音順)

岡田哲

㈱夢番地 代表取締役社長

長いこと理事を務めさせて頂きましたが今回退任しました。お役に立てたか不安です。今まで想像しなかったような問題が次々と起こっています。新体制の理事会には一致団結して頑張りたいと思います。期待しています。

倉田哲伸

㈱キョードー西日本 代表取締役

私が入会した頃は、著作権に対する認識も甘くある意味興行師からの過渡期のような時代でした。諸先輩の弛まぬ努力のお陰でACPCが設立され著作権の支払いに関して近代化されたように思います。今やACPCは音楽業界の中でも確固たる地位を確立出来ましたし、これからのますますのご発展をお祈りしております。長い間、大変お世話になりました。

齋藤誠

㈱キョードー大阪 取締役

理事としての4年間、垣根を超えてお話をする機会も多く、ご指導ご鞭撻頂きありがとうございました。今後も業界の発展の為、鋭意努力したいと思います。皆様のより一層のご発展をお祈り申し上げます。

佐藤寿彦

㈱ジー・アイ・ビー 代表取締役

私は1984年頃ACPCの前身に参加し、日本各地のイベンター創業者諸先輩から可愛がられ??バシリを務め現在に至りました。先輩方々に御礼申し上げます。また観客、アーティスト、スタッフ、ACPC事務局の皆さんに感謝し理事を退任します。有難うございました。

長澤通孝

㈱ウー音楽事務所 専務取締役

理事在任中のコロナ禍で、弊社は創業以来初めて招聘ゼロという最大の危機に直面しましたが、ACPC・IPAJの尽力により招聘興行を再開出来ました。ACPCがコンサート業界の益々の発展に寄与することを願います。

山中達也

㈱ソニー・ゴ 専務取締役

10年間お世話になりました。40過ぎで理事になり、50過ぎで退任しました。(日本の平均年齢です)ありがとうございました！

▶ コンサートプロモーターズ協会 正会員一覧

北海道

(株)ウエス / (株)キョードー札幌 / (株)道新文化事業社 / (株)トラスト企画クリエート / (株)マウントアライブ / (株)ミュージックファン

東北

(株)エドワードライブエンターテインメント / (株)キョードー東北 / (株)ギルドネクスト / (株)ジー・アイ・ピー / (株)ノースロード・ミュージック

関東

(株)アイエス / (株)アリノワ. / (有) ヴィンテージロック / (株)ウー音楽事務所 / (株)エアフラッグ / エイベックス・ライブ・クリエイティブ(株) / (株)エニー / (株)エル・ディー・アンド・ケイ / (株)オデッセー / オフィス・ゲンキ (株) / (株)キャピタルヴィレッジ / (株)キョードー東京 / (株)キョードー横浜 / (株)クリエイティブマンプロダクション / (株)グリーンルーム / (株)サンライズプロモーション東京 / (株)スペースシャワーネットワーク / (株)スマッシュ / 全栄企画(株) / (株)ソーゴー東京 / (株)チッタワークス / (株)ディスクガレージ / (株)テレビ朝日 / (株)ネクストロード・プロダクション / (株)バックステージプロジェクト / (株)ハヤシインターナショナルプロモーションズ(HIP) / (株)バンダイナムコムミュージックライブ / (株)フジテレビジョン / (株)プロマックス / (株)文化放送開発センター / (株)ホットスタッフ・プロモーション / (株)ポニーキャニオン / (株)ミュージックリーグ / (株)モストプランニング / (株)ヤング・コミュニケーション / (株)ライブエグザム / Live Nation Japan(同) / (株)LIVE FORWARD / ライブマスターズ(株) / (株)Lucky FM 茨城放送

北陸・甲信越

(有)エフ・オー・ビー企画 / (株)キョードー北陸 / (株)サウンド・ソニック / (株)スーパーキャスト

中部

(株)キョードー東海 / (株)サンデーフォークプロモーション / (株)ジェイルハウス

関西

(株)梅田芸術劇場 / (株)キョードー大阪 / (株)グリーンズコーポレーション / (株)サウンドクリエイター / (株)清水音泉 / (株)ソーゴー大阪 / (株)ナウ ウエスト ワン / (株)阪神コンテンツリンク / (株)ページ・ワン

中国・四国

(株)キャンディープロモーション / (株)デューク / (株)ユニオン音楽事務所 / (株)夢番地

九州・沖縄

(株)GAKUON ユニティ・フェイス / (株)キョードー西日本 / (株)ピーエムエージェンシー / (株)ビッグイヤーアンツ(BEA)

A.C.P.C. navi Vol.52 2024年7月発行

発行人：中西健夫 / 編集人：今泉裕人 / 編集：ACPC事務局 / デザイン：嘉手川里恵 / 取材・構成：君塚太
発行所：一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-21-18 恵比寿南ビル
TEL.03-5768-1731 FAX.03-5768-1732

▶ 新規加盟社紹介

■ 賛助会員

2024年5月入会 (株)ザ・カンパニー ※2024年7月1日時点の会員数は、正会員75社、賛助会員132社です。